THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA HATSUKAICHI

広島廿日市ロータリークラブ 会報

2018年 9・10月号 No.416

◆◆◆ 本年度会長方針 ◆◆◆

「五感を澄まして一歩前へ」

例会日／毎週月曜日 12:30 ～ 13:30
例会場／広島サンプラザ　TEL (082) 278-5000
会　長／川口　哲司　　幹事／上杉　昌幸

事務局
〒 738-0015 広島県廿日市市本町 5 番 1 号
廿日市市商工保健会館 4F
TEL（0829）31-5490　FAX（0829）31-5491
E-mail ／ office20@h-hrc.com
URL ／ http://www.h-hrc.com/

第 989 回　広島サンプラザ　2018年９月３日

会長時間

会長　**川口　哲司**

誕生祝

奨学金ならびに終了証等授与

卓　話

住環境システムデザインと地域貢献

広島工業大学 環境学部 建築デザイン学科
教授　**平田　圭子**　先生

第 990 回　あいプラザ　2018年９月10日

職場訪問例会

廿日市市総合健康福祉センター（あいプラザ）
廿日市市新宮 1-13- 1

第 991 回 マツダスタジアム　2018年９月20日

家族同伴夜間例会（カープ観戦）

第 992 回 広島サンプラザ　2018年10月１日

会長時間

会長　**川口　哲司**

誕生祝

卓　話

企業を強くした正しい事業継承をするために

エフピーステージ（株）代表取締役　**五島　　聡**　様

第 993 回 広島サンプラザ　2018年10月15日

会長時間

理事会報告

副会長　**松本　　猛**

ゆうほRCC活動費授与

卓　話

「フルート演奏」

フルート奏者　**大橋　香織**　様
フルート奏者　**松浦　美音**　様

踊り明かそう：Loewe
荒城の月：滝　廉太郎
枯葉：Kosma
見上げてごらん夜の星を：いずみたく
オペラ≪魔笛≫より：Mozart
　おいらは鳥刺し
　なんと魔法の音は強いことか
　復讐の炎は地獄のように我が心に燃え
　恋人か女房か

大橋　香織（おおはし・かおり）

エリザベト音楽大学演奏学科器楽専攻フルート卒業。
同大学大学院修士課程修了。
2007年ウィーン日本大使館にて親善演奏を行う。
フルートを宮本美佐穂、大代啓二の各氏に師事。
現在、広島を中心に演奏活動を行う。
中国フルート友の会役員、フルートコンコード広島団員。

松浦　美音（まつうら・みお）

エリザベト音楽大学卒業、同大学大学院を首席にて修了。
2017年９月、エリザベト音楽大学大学院博士後期課程を修了し博士号（音楽）を取得。
在学中、特待生としてザビエル奨学賞、大学院修了時専門研究の最優秀者としてセシリア賞を受賞。同大学より、数々のコンクール入賞に対して学長表彰、学長奨励賞を受ける。
第17回日本クラシック音楽コンクール全国大会フルート部門大学院の部、第２位（１位なし）。
第11回万里の長城杯国際音楽コンクール一般の部A、第２位（１位なし）。
第15回フルートコンヴェンションin滋賀コンクールアンサンブル部門、第３位。
第16回フルートコンヴェンションin高松コンクールアンサンブルアワード部門、第２位。
第152回日演連推薦新人演奏会にてソリストとして広島交響楽団と共演。
また、チェコフィルハーモニー弦楽四重奏団と共演。
日本学生支援機構大学院第一種奨学生「平成20年度特に優れた業績による返還免除」制度において、文部科学省令で定める業績の総合評価により、返還免除奨学生に認定。
これまでにフルートを石飛祥一、白尾隆、大代啓二の各氏に師事。
現在、エリザベト音楽大学付属音楽園講師、エクステンションセンター講師。ショコラミュージック講師。フルートコンコード広島団員。

第994回　広島サンプラザ　2018年10月22日

会長時間

グループ７ガバナー補佐　**松田　文雄**　様

会長　**川口　哲司**

卓　話

孔子の教え

広島大学 理事・副学長
文学博士　**佐藤　利行**　先生

孔子（前552～前479）の残した言葉は、彼の孫弟子たちによって『論語』としてまとめられた。全20篇、すべて500章ほどの『論語』の冒頭に置かれているのは、

子 曰く、学んで時に之を習ふ、亦（ま）た説（よろこ）ばしからずや。朋有り遠方より来たる、亦た楽しからずや。人知らずして慍（うら）みず、亦た君子ならずや、と。

という人口に膾炙した言葉である。
また、孔子がみずからの人生を振り返って語ったと言われる、

子 曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑はず。　五十にして天命を知る。六十にして耳順ふ。七十にして心の欲する所に従へ　ども矩を踰えず。

からは、年齢を示す「志学」（15歳）、「而立」（30歳）、「不惑」（40歳）、「知命」（50歳）、「耳順」（60歳）、「従心」（70歳）という言葉も生まれた。

『論語』は応神天皇（270～310在位）の頃に、百済の博士王仁（わに）によって伝えられたと言われる。以後、盛んに読まれ、江戸時代には伊藤仁斎の『論語古義』や荻生徂徠の『論語徴』などの優れた注釈書も生まれた。
今回は、『論語』に収められた孔子の言葉を取り上げ、そこに込められた孔子の思いを読み取りたい。

第995回　広島サンプラザ　2018年10月29日

会長時間

会長　**川口　哲司**

卓　話

「英語でイケバナ教室」35年
――経験から学んだこと

英語で学ぶイケバナ教室主宰
芸術学博士　**鈴木　榮子**　様

夫の転勤で滞在していた米国西海岸から広島に帰国した頃、海外フォード社員がマツダ本社に出入りするようになりました。私はお世話になった米国生活の恩返しと思い、1983年広島在住フォード社員夫人対象に「英語でイケバナ教室」を開講しました。噂は広まり世界各国から集まる教室となり、日本文化のいけばなを広く外国に紹介できたことを嬉しく思います。開講から35年、社会の流れに連動し、教室も日本人生徒中心になりました。私は、時々に応じて必要と思う情報や知識を求めて学び続けました。いけばなの古典文献も研究し、論文「いけ

ばなに継承されるもの」にまとめ2006年芸術学博士学位を授与されました。いけばなを論じての博士学位は日本初だそうで、世界中から講演依頼が入るようになりました。よき指導者になろうと、夢中で突っ走ってきた半生でした。

日本の諸文化には、自己発信だけでなく相手とのやりとりで進める精神があると、研究で見つけました。いけばなは「相手をよく見て」肯定し、特徴や有様を「いかす」ように挿すのが技で、いかそうとする心が、結局は自分をもいかすことに気づきました。「いかすことで、いかされる」は平和に結び付く。以来、いけばなの「いかす」を発信することが私にできる平和への貢献と心得るようになりました。

先月、ニューヨーク禅堂に行く機会がありました。禅哲学者鈴木大拙の思想継承活動の拠点地で、設立50周年記念祝でした。百人もの米人が瞑想していました。ランチ弁当後のプラスティックケースを青い眼の禅僧が洗っていました。「もったいない」が合言葉で、物を大事に使い切る姿勢にハッとしました。私達が忘れている先人の精神です。アプル社のステイーブ・ジョブズ氏も禅の影響を受け、The journey is the reward（行動する道に価値があるのです）と物質本位を超越する言葉を残しています。誰もが「いかす」精神を自分の世界で見つけ発信すると、社会は平和に向きそうです。

活動報告

第９回カラオケ同好会
2018年9月3日
デュエット

参加者：藤岡　哲也　ご夫妻
永井　勝康　ご夫妻
石塚　宏信
河内　正晴
松浦　ご夫人
植田　敏揮
石原　弘善

９月３日、第９回カラオケ同好会を９名で開催させて頂きました。

いつもたくさんの美味しい料理を出して頂いており、今回は特にイカと野菜の炊き込みは大好評でした。

カラオケは最高得点をめざして熱唱を繰り広げられ、松浦さんの奥さんが92点で優勝されました。優勝者に花束の景品がありましたが、当日は「デュエット」のママさんの誕生日と重なりプレゼントされました。

そして、楽しい時間があっという間に過ぎ、最後にロータリーソング「手と手つないで」を藤岡さんのギター演奏とともに、全員で合唱してお開きになりました。

次回は11月を予定です。皆様のご参加心よりお待ち申し上げます。

世話人代表　石原

これまでの奨学生の生活で得たものや、日本留学の成果などについて

凌　巧

米山奨学生になったのは去年の４月で、あっという間に奨学生としての生活が終わりを迎えました。振り返ってみたら、去った１年半が恋しく感じています。

この１年半という短い期間で、毎月の例会だけでなく、夜間例会、地区大会、米山梅吉記念館、天の橋立、出雲大社など、いろんなイベント参加させ、いろんなところに連れて行かれ、日本及び日本文化について肌で感じています。これらの体験を中国に持って帰り、将来日本語の先生になったら、学生たちに伝えたいと思います。

そして、学業の面において、この１年半をかけて、博士論文のためのデータ収集、分析を行って来ました。９月からは論文を仕上げる段階に入りました。また、８月に日本語教育学会国際大会、９月に西日本言語学会に参加し、ポスター発表と口頭発表をしました。これからは、学会誌への投稿と論文の提出を予定しています。

奨学金をいただき、ロータリーのみなさま、特にカウンセラーの二村さんの好意に一方的に甘えるだけではいけないと思います。いただいたご恩は、いつか教育や研究を通じ、中国と日本の交流や親善に貢献することを通じ、恩返しをしなければなりません。

以上をもって、米山奨学生として最後のレポートとなりますが、改めて感謝の意を申し上げたいと思います。この１年半、本当に本当にお世話になりました。